

平成 30 年 11 月 16 日

保護者の皆様

吹田市立山田第三小学校
学校長 花田 郁子

平成 30 年度全国学力・学習状況調査の分析について

晩秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のことと存じます。また、日頃より本校の教育活動に関しまして、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度も 4 月 17 日に、6 年生を対象として「全国学力・学習状況調査」が実施されました。学力調査は、「国語」「算数」「理科」の 3 教科で実施されました。これらは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査により得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、本調査のねらいであると考えております。

6 年生には、自らの学習到達状況を把握するため 9 月中旬に個人票とともに問題用紙と正答例を併せてお返ししました。学校としては、結果を客観的に分析し、より効果的な指導方法を見定め、本校のみならず、小・中学校における連続した取り組みとなるよう、指導法の改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましては、今後の家庭学習の指針として、以下の分析を参考にして頂きますようよろしくお願い致します。

なお、吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しておりますので併せてごらんください。

1. 調査の内容

◇教科に関する調査（国語A・国語B・算数A・算数B・理科）

A問題 主として「知識」に関する内容で 学習における基礎基本的な力を調べます。

B問題 主として「活用」に関する内容で、様々な場面に活用する力を調べます。

◇学習状況に関する調査（質問紙調査）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関するアンケート調査です。

2. 教科に関する調査結果について

★国語A（主として「知識」に関する内容）

○概要…全体の正答率は、全国値を上回っている。

○各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと：全国値と同じ。

・会話の内容を読み取り場面に応じた説明の仕方を判断することが課題である。

書くこと：全国値を上回っている。

読むこと：全国値と同じ。

・目的に応じて必要な情報をとらえることが課題である。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項：全国値を上回っている。

・主語と述語の関係に注意して文を正しく書くことや慣用句の意味を理解して使うことに課題がある。

★国語B（主として「活用」に関する内容）

○概要…全体の正答率は、全国値を上回っている。

○各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと：全国値を上回っている。

・「書くこと」と組み合わせて出題された問題に課題がある。

書くこと：全国値をやや上回っている。

・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめるなど、条件を踏まえて自分の考えを持つことに課題がある。

読むこと：全国値を上回っている。

・書いてあることの主旨を読み取ること、条件に合わせて必要なことを選び書くことができている。

国語科における成果

○漢字の問題は定着がみられ、よくできている。

○物語の内容を読み取る問題はとともできている。無回答率が低く記述問題でも粘り強く取り組む姿勢がみられる。

今後の改善点

○辞書活用やことわざや慣用句、故事成語などの語彙力をつける取り組みを進める。

○自分の考えや意見を伝えるだけでなく、相手の意図を捉え、自分の意見と比較し考えをまとめ伝える（書く）など対話的な活動の充実を図る。

○物語や説明文以外の非連続型（写真やグラフ）資料の読み取りの指導の充実を図る。

★算数A（主として「知識」に関する内容）

○概要…全体の正答率は、やや全国値を上回っている。最終問題での無回答率が全国値より高い。

○各領域における成果と課題

数と計算：全国値をやや上回っている。

・除法で表すことができる二つの数量関係の理解に課題がある。

量と測定：全国値を上回っている。

・一点に集まる角の和が 360° に着目する図形の角を求める問題はできている。しかし、 180° の角の大きさの理解に課題がある。

図形：全国値を下回っている。

・円周率の意味理解に課題がある。また、示された方法をもとに空間の中にあるものの位置を表現することに課題がある。

数量関係：全国値を上回っている。

・百分率を求める問題はとともよくできている。

★算数B（主として「活用」に関する内容）

○概要…全体の正答率は全国値を上回っている。最終問題の無回答率が全国値より高い。

○各領域における成果と課題

数と計算：全国値を上回っている。

量と測定：全国値を上回っている。

図形：全国値を上回っている。

数量関係：全国値を上回っている。

・棒グラフと帯グラフから読み取り、適切に判断することに課題がある。

算数科における成果

○基本的な計算力や知識は身につけている。

今後の改善点について

○必要な情報を選択したり、示された方法が問題場面に適応するか考察し判断したりする指導の充実を図る。

○数量関係について系統立てて、言葉や式を用いて表現する指導の充実を図る。

★理科

○概要…平均正答率は、全国値をやや上回っている。無回答率は全国値より下回っている。

○各領域における成果と課題

生命：骨のつなぎ目を表す言葉を書く問題や腕の曲がる仕組みの模型を選ぶ問題で全国値を下回っている。

地球：川の水位の変化から上流側の天気と下流側の水位の関係についての問題で全国値より下回っている。

エネルギー

粒子：食塩を水に溶かした時の全体の重さを選ぶ問題で全国値を下回っている。

理科における成果

○安全に留意し、生物愛護の態度をもって観察することができている。

○実験・観察など体験的な学習に興味関心を持ち、学習に取り組む児童が多い。

今後の改善点について

○日常生活と関係づけて図や模型などを用いて考える場面や、科学的な言葉や概念の意味を理解し、事象に適した説明をする場面を授業で設定する。

○根拠のある予想や仮説を立て構想した実験方法が検証可能かどうか考えて、結果まで見通しを持たせるような指導の充実を図る。

3. 学習状況に関する調査結果について

★自尊感情・規範意識について

- ・「自分には良いところがあると思いますか」では肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」では肯定的な回答は全国値とほぼ同じである。しかし、「当てはまらない」の回答が全国値を上回っている。
- ・「学校のきまりを守っていますか」では肯定的な回答が、全国値を大きく下回っている。
- ・「地域社会などでボランティア活動の参加」や「地域への関心」を問う設問では、全国値を下回っている。

○自分を好きという気持ちがいじめに立ち向う力とつながっている。継続していじめを許さない人権教育の推進に努める。

○みんなが気持ちよく過ごすことについて考えさせ、授業や生活において規律を守る指導を継続していく。

○地域の行事等の参加は多数あるので、地域で過ごす一員として関心が持てたり積極的に関わったりするような呼びかけをする。

★家庭生活について

- ・「家で学校の授業の予習・復習をしていますか」では、「している」「どちらかといえはしている」と回答した児童の割合が全国値を下回っている。
- ・「学校の授業以外に普段の平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」では「全くしていない」の回答が全国値を上回っている。
- ・「学校の授業以外に普段の平日、1日当たりどれくらいの時間、読書していますか」では「10分より少ない」「全くしない」の回答が全国値を上回っている。
- ・「新聞を読んでいますか」では「ほとんど見ない」「全く見ない」の回答が全国値を上回っている。

○授業で学んだことをさらに深め、自分で課題を見つける自主学習の機会を作る。低学年からの家庭学習の習慣を身に着ける。家庭学習の進め方など提示し、取り組みを進める。

○図書室の整備や手に取りたくなる図書の配置をするなど読書推進のため環境を整える。

★学習、教科、学力調査について

- ・「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができていたか」では肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなど工夫して発表したと思いますか」では肯定的な回答が全国値を下回っている。
- ・算数については、「授業の内容がわかる」「新しい問題に出会ったとき解いてみたいと思う」では肯定的な回答が全国値を上回っている。
- ・算数についての「すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力したか」では肯定的な回答は全国値を上回っている。
- ・「算数の学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えるか」「もっと簡単に解く方法がないか考えるか」では肯定的な回答が全国値を下回っている。

○話し合い活動を通じて、自分の考えや思いを相手に伝えるということはできてきている。国語科や特別活動など他教科での話し合い活動の取り組みの成果が表れている。

○構成や資料の提示など工夫し、効果的な発表をすることに取り組み、児童が主体的な考えを説明したり発表したりできるように学習方法を工夫する。

○算数では普段の授業をまじめに取り組み理解できている児童が多い。また新しい問題に前向きに取り組むことができている。

○解き方を工夫したり学習したことを活用したりする学習場面を取り入れる。

○問題場を理解し必要な情報を捉え考察し判断できるよう見通しを持って取り組む指導の充実を図る。

4. 今後の取り組み

次期学習指導要領が公示され、道徳の教科化、5,6年生の英語科の導入などの先行実施を含む二年間の移行期を経て平成32年から新学習指導要領による教育が行われていきます。新しい時代に必要となる資質・能力の育成と学習評価の充実、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善、さらには、学校・家庭・地域が「学校教育を通してよりよい社会を創る」という目標を共有し、社会に開かれた教育課程を実現していくことが求められます。

吹田市では、新しい時代を生きる子どもたちの「生きる力」の基盤となる確かな学力の育成を最重要課題に位置づけて教育施策の策定を行っています。本校においても、学力向上に向けて、吹田市の教育施策に沿って中学校ブロックでの9年間を見通す小中一貫教育カリキュラム作成・活用による系統的・連続的な教科指導の実践、授業のねらい・めあての明確化、学習達成状況の振り返りによる知識理解の定着、児童の主体的な学習活動と対話的活動を取り入れた学習活動の充実、さらに、児童の実態に応じた習熟度別指導の充実と少人数指導の検証と改善に取り組んでいきます。

学校・家庭・地域が連携・協働しながら学校教育活動の充実が図れるようご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。